

令和6年度 学校関係者評価書（川南町立多賀小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価 項目 総合	結果の考察・分析および改善策等	関係者評 項目 総合	学校関係者評価委員の意見
I 町民が生産を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育支援の充実に努める。 ○ 家庭学習提出95% ○ 望ましい家庭学習の具体的姿の提示 ○ 保護者相談、個人面談の充実	3.2	・家庭学習に積極的に取り組み、学力の定着につながっている。保護者と家庭学習についての連携を図っているが家庭環境等により協力が難しい家庭もある。週明けの提出率が低かったり、提出物が期限を過ぎてしまうこともあった。 ・今後デジタル課題にも積極的に取り組ませたい。 ・1・2年生や3・4年生と十文字保育園生との交流を実施した。 ・4月や夏季休業中に個人面談を実施し、家庭との連携を図った。	3.7	・ 家庭学習は、家庭環境によりバラつきがあるのではないかと、対応に苦慮されていると思う。 ・ 家庭学習の充実に努めてられる学校の対応に感心しております。家庭においても何らかのきっかけがないと前に進み行動がとれない事が多いと思いますので、学校側の対策に頭が下がると思います。家庭教育の一つの案内になり、家庭での親子の学ぶべきことが自然に出てくると思います。指針を示して下さるものがあれば迷っている方々にとっては大変心強いものだと思う。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ○ 各行事等の参加率90%以上 ○ PTA執行部等との綿密な連携 ○ コミュニティ・スクール共同事業の推進	3.2	・ プールでサップなどの新たなレクリエーション企画等もあり、PTA、地域、学校と連携しながら魅力ある活動の推進ができています。親子のふれあいをするよい機会となった。次年度も継続できるとよい。 ・ 多くの保護者が行事や懇談に来てくれ非常に協力的である。 ・ 一部の学年の保護者より学級通信を定期的に配付してほしいと要望あり。	3.7	・ 地域が参加可能な学校行事については、地域向けの情報発信をしていただきたい。 ・ 多賀小ではこの項目については、最大限努力されていると思いますが、児童にとっても地域の方々にとっても、受身的ではなく、それぞれの中からすばらしい一案が出てくることに期待しております。地元の高齢者達も、自分達の出番があることに喜びの声（気持ち）を持っておられているようです。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進					
1	読書活動を推進する。 ○ 全児童の目標設定と、その到達 ○ 読書好きの子を育てる活動の推進（R5貸し出し冊数：16456冊 R6目標貸し出し冊数：1,5000冊）	3.1	・図書司書・図書担当の先生方の取り組みや担任が積極的に図書館利用を進めているおかげで、本に親しむ児童が多くなった。 ・委員会を中心にイベントや読み聞かせなど読書活動の推進により、児童の読書意欲が高まっている。 ・12月に地域協力者による読み聞かせ実施。	4.0	・ ボランティアによる読み聞かせにおいて支障のない範囲において児童と共に聞かせていただきたい。 ・ ボランティアの方々の声掛けを早く行うことで募集してくださる方も増えると思う。読み聞かせの様子を見学してもらうことも大事だと思う。 ・ 年々学校の図書室も変化し、室内に入りたい、本が読んでみたいという気持ちになっているように思う。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ○ 授業方向上につながる授業研究の究明 ○ 単元テスト平均得点率85%以上 ○ 新聞記事を活用した読解力育成	3.1	・単元テストで高得点を取ろうと努力する児童が多く見られた。 ・職員減による少人数指導や個別指導の実施が困難になっている ・新聞記事の活用はまだ十分ではない。宿題に活用するなど積極的な活用を今後検討したい。	3.3	・新聞記事の内容は、広範囲にわたるので、身近な教材と成り得るのではないかと。 ・ 参観授業を見せていただき、児童数減の現状に驚いています。しかし、先生方の教育に対する取り組みを見せていただき、安心はしたものの、複式学級の姿に児童・先生方の苦勞・困難が分かりました。大変でしょうが、今後の多賀小の子供たちの為に先生方の創意工夫をお願いし期待しております。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ○ ふるさと学習の充実 ○ 「いのちを大切にする授業」の企画 ○ いじめの早期発見・早期対応 ○ SCの活用と教育相談の充実	3.6	・全児童対象の教育相談の実施により、子ども達の不安や悩みを、小さなうちから解決につなげる機会となった。普段から児童と教員のはなしやすい環境作りができたこともよかった。 ・「いのちを大切にする授業」や「非行防止教室」を全学年で実施できた。 ・毎月のあねアンケートでいじめの未然防止や生徒指導対策会での共通理解を図れた。 ・保護者より担任の言動や職員のあいさつについての意見があった。職員自らも人権意識を高く持ち、ふるまいにも改めて気を配るようにしたい。	3.8	・ 地域人材の活用については、多賀小校区に必要以上にこだわることなく検討していただきたい。 ・ 人権問題は人が生きていくうえでとても大切、重要な事です。学校だけでなく、保育園、家庭から大切にすることとおもいます。子供が誕生して一番初めにお手本となるのは両親・家族です。成長するにつれ、集団の中での活動が入ってきます。人の気持ちを思いやることを中心に諸先輩方の心を育てる事を常に念頭において頂くとういことかと思っております。これからも関係機関との連携と情報共有で子供たちの支援をよろしくお願ひします。
4	特別支援教育を推進する。 ○ 個別の支援について共通理解・共通実践 ○ 特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の構築	3.3	・校内支援委員会では、支援学級だけではなく、通常学級の支援を要する児童についての共通理解を図ることができ、コーディネーターを中心に研修や実践を行い必要な支援体制を全職員で作ることができた。 ・エリアコーディネーターや通級指導教室担当者との連携を図ることで、支援を要する児童への適切な支援をすることができた。	3.8	・ 大規模農家である、保護者の農作業を見学し、現地で説明を受けることは検討できないか。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ○ 地域行事と学校教育の関連した計画 ○ キャリア教育と関連付けた計画	3.3	・地域学校協働本部の支援の下、外部の関係機関との連携や地域人材の活用を行っている。 ・キャリア教育という視点から考えると他校より学ぶ機会が少ないと思われる。保護者を講師として職業について講話をしていただくなど、さらなる工夫をしていく必要が	3.7	
6	キャリア教育を推進する。 ○ キャリアパスポートを生かした教育の推進 ○ 「キャリアパスポート」による地域の行事等との関連付け	3.2	・ 中学校以降を見通したキャリアパスポートの取組を意識することができた。キャリアパスポートを書く際に自分の望ましい姿をかくなどの工夫を行えた。	3.3	・ 国際交流員等の活用も、当然必要でしょうが、最近では、身近で外国からの技能実習生を登下校中に見かけることが多い。この実習生との交流ははかれないか。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ○ 学校教育及び家庭学習におけるICT活用の推進 ○ 国際理解教育及び外国語教育の充実	3.3	・授業でもICTの積極的な活用や課題にデジタルドリルを有効に活用することで、児童の学力向上につなげることができた。 ・ICT支援員を活用した研修会を行うなどして、もっと教員が一人一台端末のタブレットを効果的に使った学習指導ができるようにしたい。	3.7	・ 授業でのICT機器の活用で、児童も先生方も大変だと思っています。ただ指示だけでなく、人間と人間との心のふれあいもその中で大切にしていけたらと思います。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ○ 教職員の意識改革の推進 ○ 内容に応じた校務分掌の工夫（全体・小集団・個人） ○ 校内外の研修への主体的参加	3.4	・校務文章のスリム化により、働きやすい環境につながっている。 ・OJT研修が計画的に行われるようになったので、今後も無理のない程度で先生方が互いに学び合える場を設定したい。	3.3	・ 働き方改革については、他業種の方策も参考にさせていただきたい。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ○ 緊急時・不意時における危機管理の徹底と常時危機意識の高揚 ○ 児童の危機意識を高める指導	3.3	・定期的な安全点検から修繕依頼までスムーズに行うことができた。児童による安全点検も実施し児童の安全意識の向上も図ることができた。 ・予告なしの避難訓練も実施できた。	3.8	・ 登下校中の不測の事態の対応については、通学路沿線住民の協力が必要である。「おたすけハウス」の協力をはじめとし、地域住民によるネットワークを構築していきたい。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進に努める。 ○ データを生かした指導の充実 ○ 個の力を伸ばす授業及び日常指導 ○ 体を動かすことが好きになる教育の推進 ○ 健康増進意識の高揚	3.2	・体力テストの結果より児童の体力の低下が著しい。今後もスクールスポーツプランを意識した体育学習の推進を図りたい。 ・体育の時間に体力づくりに取り組んだり、昼休みの外遊びの奨励などにより、運動は楽しいと感じている児童は多い。 ・歯科治療率については、現段階（11月）で71%と目標を達成していない。今後も、お知らせ等で治療を促す必要がある。	3.3	・ 歯科治療率については100%にすべきではないか。